

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

〔取り組んでいきたい項目〕

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

〔取り組んでいきたい内容〕

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

〔特に力を入れている点・アピールしたい点〕（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームやすらぎの里
（ユニット名）	
所在地 （県・市町村名）	鹿児島県始良郡始良町下名2992番地
記入者名 （管理者）	鎌田セツ子
記入日	平成 20年 6月 1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を全職員で共有し、これまでの理念を見直し「地域の中でその人らしく暮らし続ける」サービスとしての独自の理念を作った。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝のミーティングでは、理念について職員間で話し合い、日々の実践に活かしている。 ○	地域住民の方々に声かけし、花見会を一緒に行った。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議や家族会時に事業所の地域密着型サービスとしての理念や役割を説明している。玄関やホーム内にも理念を掲示し、理解してもらえようようにしている。 ○	事業所全体が発行するやすらぎ季刊誌や校区社協だより「いきいき山田」に掲載し、地域や家族に配布している。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域の方々より、自宅で作られた野菜、芋こんにゃく、手作り惣菜等の差し入れを頂いている。また、頂いた芋こんにゃくで手作りのものをおすそ分けし日常のお付き合いができている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民との合同行事(夏祭り、敬老会、花見等)を実施している。地域が主催する(案山子祭り、文化祭、生き生きサロン等)地域活動に利用者と一緒に参加している。	事業所の職員が、地域の自治会などの行事に出向いてフラダンスや、踊りなどを披露して交流を図っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域住民(民生委員)を対象にした認知症の理解やグループホームの役割について、勉強会を実施している。	○	特養ホームを中心に展開している放課後児童健全育成の学童保育をグループホームにおいても見守り等すこしづつ実施している。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は、自己評価及び外部評価の意義を理解しており、全職員で自己評価を行い、日々のケアの確認や見直しを図りサービスの質の向上に努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に(2ヶ月毎)運営推進会議を開催し、事業所が取り組んでいる活動内容や、自己評価の内容説明、外部評価の結果を説明し、明らかになった課題について様々な意見を頂きサービスの向上に生かしている。	○	運営推進会議を生かした取り組みとして「自主防災対策組織」を作り、地域住民が相互に連帯感に基づいて地域内で発生する災害に対処し安全、安心な住みよい地域作りを目的とした支援体制を作っている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	不明な点や、生じる問題点については、随時電話で問い合わせをしたり、実際に窓口に出向いて相談、指導を受けている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在も入所前より「地域福祉権利擁護事業」制度を利用されている援助者(2名)もあり、職員も制度については理解しており担当者と連携を取り支援している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所全体で虐待防止委員会を設け、定期的(毎月)に勉強会を実施している。委員会の中で、一連のマニュアルを作り身体拘束や虐待のないケアに努めている。外部の研修にも参加している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明書や利用契約を十分に時間をかけて説明を行い、理解、同意を得た上で契約書を取り交わしている。重度化や見取り及び医療連携体制等についても十分に説明し、同意を得ている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者同士の会話の中や、利用者の表情や言葉などからその思いを察するように努めている。食事やお茶を一緒に楽しみながら何でも話せる雰囲気作りに努めている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時には、利用者の日々の生活の様子や健康状態等を報告している。また、身体機能の変化や問題が起きた場合は、その都度、報告を行っている。金銭管理については、出納帳を明示し確認のサインを頂いている。県外在住の家族には利用者の手紙や絵などを添えて郵送している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談や苦情を受け入れる市町村の窓口や、相談者など契約書に明示し、玄関入口に掲示している。家族会や面会時には、職員の方から意見や、要望を聞くように努めている。受付に意見箱を設け、気軽に意見を出してもらえそうな場を作っている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議に運営者も参加し、職員の意見や要望を聞き、改善に繋げている。管理者は、日頃から職員の意見を聴くように努めている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	管理者は、利用者の状態の悪化や、夜間の急変時や、職員の突発的な休みにも対応できるようフリー体制をとっている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の新設事業の開設により、初めて1名の職員の配置異動を行ったが、ダメージを最小限に抑えるため利用者の顔なじみの職員と交替した。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は事業所内外の研修が受けられるよう法人全体で学ぶ機会を提供している。また、個人的にもで資格取得のための勉強を行い国家資格を取得した。	○	今後も引き続き、法人内外の研修に全職員が積極的に参加し、質の向上や確保に努めていきたい。働きながら学んで、2名の職員が資格を取得している。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や地区のグループホーム評議会の主催する事業所同士の研修に参加し事例検討や意見交換を通して御互いの事業所の情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者(法人代表者)は職員に気軽に声をかけて相談しやすい環境作りに配慮している。また、他の事業所の職員と一緒に習い事や町主催の公民館講座に参加している。	○	毎月、全職員で積み立てをし、食事会等の親睦を図っている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者(法人代表者)は頻繁にホームに来て、利用者と一緒に過ごしたり、野外活動にも参加し、現場の状況や日頃からの取り組み等を十分に把握している。資格取得については、研修の参加や勤務計画に配慮した体制を取っている。	○	職員が向上心を持って働けるように職能評価や資格取得により処遇改善を図った。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時は、必ずゆっくりと時間をかけた事前面談を行い、実際に困っているのか、些細な事柄についても本人や家族の話をよく聞き、本人の生活の全体像を把握し信頼関係づくりに取り組んでいる。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初めての相談時に家族との面接を行い、家族の置かれている状況や困っていること等、話をゆっくり聞き、家族の抱えている不安を把握し、信頼関係を築くよう努力している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人、家族の思いや生活状況をよく聞き取り、当面必要と思われる支援を見極め、他の事業所も含めサービスに繋げている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談や利用に至っては、本人と家族と一緒に来所していただき、茶話会やレクリエーション等に参加してもらいながら利用者や職員と触れ合う場面を設け、顔なじみの関係作りや安心感を持って頂けるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と一緒に家事を行ったり、本人の得意なことを活かせる場面作りを日常的にしている。(絵描き、三味線)利用者が職員に効果のある肩もみの方法や、歌や昔ながらの楽しい遊び方等教えてくださることもある。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日頃から家族とのコミュニケーションを取っており、誕生会や行事(花見、バスハイク)等への参加や協力を得ている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	外食や外泊で家族と一緒に過ごして頂いたり、来訪時には家族に日頃の様子をお伝えすることで両者の心の距離を近づけるように配慮している。また家族に散髪等の協力をお願いしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から行きつけの美容室や、喫茶店を利用したり、友人知人を訪ねたり、ふるさと訪問等の支援により馴染みの関係を大切にしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員は、お茶や食事の時間には利用者との間に入り一緒に会話をもつようにしている。また、レクリエーションや家事活動を通じて利用者同士の交友関係を築いている。利用者同士のトラブルがあった場合は、職員が仲介役となって孤立しないように配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	併設の施設へ移られた利用者にも入所者と一緒に面会に行ったり、事業所の方にも遊びに来てもらい交流を図っている。又、家族にも遊びに来て頂いたりして相談に乗っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的なかかわりの中で本人と話し合ったり、利用者間との話を聞いたりして、どのようなことを願っているのか、思いや意向の把握に努めている。意思疎通の困難な方には、ご家族と一緒に検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時に、本人やご家族より入所前からの暮らしぶりの聞き取りを充分行い、又、友人の来訪時等にもプライバシーに配慮しながら把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの生活リズムや心身状態等を詳細に記録し、全職員が情報の把握に努めている。できることに着目し、家事活動や趣味活動(絵描き、三味線、カラオケ)などの取り組みを行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画については、必ず本人や家族の思いや意見を聞くようにしている。職員会議やカンファレンスで、気づき、問題点等について職員全員で話し合い介護計画に生かしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	実施期間に応じた見直しを行っている。個々の状態変化に応じて本人、家族の意見や要望を基に主治医や職員と話し合い介護計画の見直しをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や支援経過記録は、個別に食事、水分量、排泄、健康状態、日々の生活の様子等を記録し、情報の共有に繋げている。支援経過記録は、日中(昼)、夜間(赤)と色別にして見やすいように工夫している。介護計画実施表を作り確認のチェックを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の希望や状況により、故郷訪問や受診(眼科、皮膚科、歯科)や送迎等の支援を行っている。健康管理や状態変化に対しても、協力医療機関による受診や、24時間連携体制を取り医療ニーズへの対応を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署の指導のもとに地域住民と職員による夜間総合避難訓練を実施している。地域の方々や、民生委員のボランティア、地区の小、中学校の文化祭や訪問等の交流の機会を設けている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地区自治会が開催する生き生きサロンに参加したり、町の文化祭や図書館に利用者の手作り品や絵手紙等を展示させてもらっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に、地域包括支援センター及び地区の職員が参加するようになり、理解や関係が深まり、情報交換ができるようになった。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医や、本人、家族の希望する医療機関に月2回の訪問診療を受けている。受診や通院は、家族同行や希望により職員が付き添いを行っている。	○	夜間の緊急時等にも対応できるよう24時間体制により、相談や、往診ができています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	併設の施設に、認知症の専門医が定期的に療養指導に来ており、症状の悪化等がみられる場合は相談や受診をしている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常勤の看護師が健康管理や状態悪化に応じ、かかりつけ医や協力病院と24時間連絡体制による支援を行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	現在1名の利用者が入院中である為、病院で安心して生活ができる様病院関係者と情報交換を行ったり、できるだけ面会に行くようにしている。又、主治医、家族と話し合い、少しでも早く退院できるように連携を図っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や、終末期のあり方については、アンケートや看取り介護ならびに終末期医療に関する同意書を作成し、本人や家族、主治医を交えて説明や話し合いを行い入居者全員の合意を得ている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や終末期にあたってはグループホームで「できること、できないこと」を明確にし、本人、家族の意向を確認しながら、協力医療機関や主治医との連携により、医療ニーズへの適切な対応を24時間連絡体制で取り組んでいる。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	現在1名の利用者が入院中である。入院時には、医療機関関係者に対し、本人のこれまでの状況等を詳細に情報提供している。職員が交代で面会に行き治療の状況や退院に向け、家族や医療機関関係者と早期退院に向けきめ細かい連携を取っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	事業所全体で人権擁護委員会を設け、全職員で定期的に勉強会を実施している。一人ひとりを尊重した言葉かけを行い記録等の個人情報に関しては施錠し取扱いに充分に注意している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	○ 常に本人とゆつくりとコミュニケーションをとりながら、自己決定してもらえるように配慮している。意思表示のできない利用者には表情や行動等から察し、表出しやすいように働きかけを行っている。	利用者の希望に沿って、朝はパン食や、コーヒーなどのメニューにしている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れはあるが、一人ひとりの趣味や気持ちを大切に支援を行っており、(絵描き、塗り絵、買い物、読書等)利用者の希望に合わせて支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望により、行きつけの美容院を利用している。又、本人や家族の意向により家族や職員がカットすることもある。服装は本人の好みで対応しており、自己表現できにくい利用者には一緒にお手伝いしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に調理の手伝いや盛り付け、配膳、片付け(食器洗いや御膳拭き)等を利用者と一緒に行っている。食事も利用者と同じものを一緒にテーブルで食べている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お茶時間には利用者の希望により、そば団子、ふくれ菓子等の昔ながらのおやつ作りを一緒に行っている。刺身のお好きな方が多く時期を選びながら時々お出して大変喜ばれている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの様子を観察しながらさりげない声かけや誘導を行っている。夜間や外出時に不安がられる利用者には、リハパン、尿取りパット等の使用を試みている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の好みに合わせ曜日を決めている。一人ひとりの体調や希望に配慮し、時間帯、順番は本人と相談しながら決めている。入浴拒否される方には、時間をおいて再度声掛け対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は、レクリエーション、趣味活動、外出等の活動を促し安眠につなげており、眠剤は使用していない。どうしても眠れないときは話し相手になったり、添い寝し、安心して休んでいただけるように対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や趣味などを把握し、本人が好きなこと、できることを楽しみながら生活していただけるように働きかけを行っている。本人の得意とする家事活動やレク活動でリーダーシップを発揮されている。(絵描き、食事作り、カラオケ、買い物、生け花)		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の力や希望に応じて少額を所持してもらい、安心していただけるよう配慮している。買い物時には本人に財布を持って頂き自分で支払って頂けるようサポートしている。管理できない利用者には職員がお手伝いしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	歩行訓練や気分転換をかねて散歩に出かけたり、希望によりスタッフ同行でドライブ故郷訪問、買い物支援を行っている。地域の生き生きサロンや季節に応じた行事計画等により戸外に出かけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段行けない所への外出については、利用者に聞いたり、職員間で話し合いを行い、早くから計画し、家族や地域の協力をもらい支援している。	○	花見会、ソーメン流し、桜島一周等利用者全員が参加できた。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者一人ひとりの家族が遠方のためホーム便りや月1回の絵手紙、本人自身が書かれた手紙等を郵送し交流が図られている。利用者を書いていただいた絵手紙を、年賀状や暑中見舞いとして出している。電話が来たり、かけたりするときは子機使用により居室で気兼ねなく話をさせていただいている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも面会に来ていただけるように面会時間は設けていない。訪問時には気兼ねなく過ごして頂けるように居室やフリースペース等でお茶を用意し、ゆっくりくつろいでもらっている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所全体で身体拘束委員会を設け、身体拘束がもたらす弊害や、事例を取り上げ定期的な学習会を行い、充分理解して身体拘束のないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、できるだけ鍵をかけないケアに努めている。利用者一人一人の外出傾向を把握し見守りを徹底しているが、職員が目を離したとき外へ出て行かれることもあり、両ドアに「ドアチャイム」を設置し外出の気配を察するようにしている。併設施設との連絡関係もできている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は、ホールにて職員が見守り、居室も巡視し、声かけを行っている。入所者の見守りをしながら、記録等の事務作業も行っている。夜間帯もホールで待機しすぐ対応できるようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物類は、保管場所を決め、本数が確認できるように本数表を張って管理している。はさみ、針等を使用する際は、一人ひとりの状況に応じて見守りながら一緒に行っている。薬剤は、利用者の目に触れない場所に保管し、夜間は施錠している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故発生時の対応手順や急変対応マニュアルを作成し、併設施設の看護師による救命講習会等で知識を学び事故防止に努めている。ヒヤリハット、事故報告書を作成し、職員間で再発防止に取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力により、事業所全体による心肺蘇生術(実技含む)研修や、併設の看護師による応急手当などの勉強会を実施している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、地域住民の参加による総合避難訓練、風水害対策講習、夜間想定消火避難訓練、消防用設備等の総合点検を行っている。地域住民との自主防災組織を作り、話し合いや支援体制に取り組んでいる。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	面会時に一人ひとりの日常生活の様子や、想定されるリスク等について家族に説明し、理解をいただけるようにしている。抑圧のない生活を大切にしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日(朝、夕)バイタルチェックを行い、顔色や表情、食欲状態等の把握をし、体調の変化の発見に努めている。状態に変化のあった場合はかかりつけ医に報告し、往診や適切な指示を受けている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	基本的には看護師が服薬管理を行っている。一人ひとりの薬剤情報提供用紙をファイルに整理し、全職員が薬の目的や、内容を把握している。薬の追加や、臨時薬が処方された場合は、全職員が把握できるように、申し送りノートに記入している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎朝牛乳を飲用、ヨーグルト、繊維の多い食材を取り入れている。運動不足にならないよう、生活リハビリや、散歩する機会を設け、便秘予防に努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に義歯の洗浄や、歯磨きの声かけや誘導を行い、利用者全員の口腔ケアに努めている。自力でできない方には、見守りや援助により行っている。就寝前にはポリデント消毒を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事、水分チェック表を細かく記録し、不足しないよう把握している。併設施設の管理栄養士より年1回の栄養スクリーニング勉強会や、献立のチェックや栄養バランス等のアドバイスをもらっている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	事業所全体で感染予防対策委員会を設け、毎月1回勉強会を実施している。本人家族の同意を頂き、毎年インフルエンザの予防接種を職員と共に全員が受けている。手洗い、うがいの励行、手拭はペーパータオルを使用している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板や布巾は毎晩漂白し、衛生管理を徹底している。冷蔵庫や、冷凍庫の残り物の点検を毎週(土曜日)に行い、処分や清掃をしている。新鮮で、安全な食材を使用するため、買いだめをしないようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先に季節の花鉢やベンチを置き、どなたでも気軽に立ち寄っていただけるようにしている。玄関にも長いすを置き、安心してゆっくりと出入りできるように配慮している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と一緒に手作りしたラッキョウ漬けや梅干を台所のカウンターに置いたり、又、菖蒲湯やゆず湯等、季節感を取り入れて工夫している。玄関、廊下には、利用者の家族より頂いた季節のお花等を生けてもらったりしている。食材には、なるべく旬の物を使い、季節感を取り入れるようにしている。	○	季節に合った壁掛けや小物等を手作りし、生活感を取り入れた飾り付けを行っている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールにソファを置き、気の合う利用者同士が話したり、くつろいでいる。廊下(2ヶ所)にも小さなテーブルや椅子を置き、自由に絵描や会話を楽しんでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が自宅で利用されていた馴染みの机、椅子、布団、額、目覚まし時計、ラジオ等日用品を持ってきていただいている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝食後や昼食後に、ホールや各居室の窓を開け、空気の入れ替えを行っている。冷暖房を使用する際には、外気温や利用者の状況を見ながらこまめに調整している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール、トイレ、浴室、廊下等殆どの場所に手すりを設けており、安全確保と自立への配慮をしている。転倒防止を図るために、利用者の身体機能に合わせて、移動バーの設置や、浴槽内に滑り止めマット等の工夫をしている。床も柔らかい素材を使用している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレや居室などの混乱しやすい場所には、利用者の目線に合わせ名前、似顔絵、本人に描いて頂いた絵等を表示し工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先にベンチを置いて、日常的に景色を眺めたり、お茶等を楽しめるようにしている。菜園のスペースを設け、季節の野菜や花を植え楽しんでもらっている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

私達のホームは自然に囲まれ、小鳥のさえずる声が聞こえ、庭先の山では旬の山菜が取れるなど季節感あふれる山菜料理が一品となっております。毎日の暮らしの中で一人ひとりができる範囲で調理、掃除、園芸などの家事活動に声掛けを行い本人の得意分野や自分の力を発揮していただけるよう支援しております。当ホームの自慢はなんと言っても豊富な天然温泉（炭酸水素塩泉）です。神経痛や関節痛等の効能やじんわりと身体の芯まで温めてくれる温泉は入居者の皆様より大変好評を得ております。地域との交流も毎月の生き生きサロン、ボランティア、絵手紙等も実施し、絵手紙の展示コーナーを設け、入居者の生きがいにもなっており又、来訪者の方々の目を楽しませています。又、地域の方々より梅や、こんにゃく芋、キンカン等を頂き入居者、職員が一緒となり、芋こんにゃくや保存食をつくっております。職員が習い事をしており、ホームの行事や地域の文化祭、生き生きサロン等で入居者と一緒に参加し披露して大変喜んでいただいております。今後も地域社会との交流を大切にし、入居者一人ひとりに喜びや安心して頂けるケアを提供していけたらと思っています。